偕行社名入り油壺 サイパンで発見

榎本 眞己 陸自71

一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会は、令和4年度マリアナ諸島現地調査（令和5年1月29日～2月10日）を職員5名によりサイパン島で実施した（サイパン島の調査は平成28年に協会が設立されてから13回目）。

今次調査は島内16カ所で行われ、36柱の遺骨を回収した。

本調査で一番多くの遺骨を回収したのは、サイパン島中南部のタッポーチョ山とアスリート飛行場の間にあるヒナシス丘陵地域（近くには黒木大隊の慰霊碑と15糎榴弾砲が存在）の「タラヒヒル」と呼ばれる未調査で手付かずの洞窟（写真1・2）であり、遺骨14柱の他に多くの遺品を回収した。

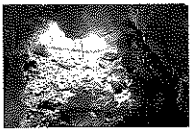


写真1

写真2

回収した遺品は、小銃・銃剣、小銃弾、認識票（静岡歩兵第118聯隊）、万年筆等の日用品の他に特記すべきは偕行社名入り刀手入油壺（写真3・4）であった。

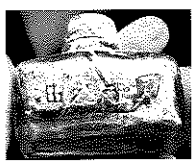
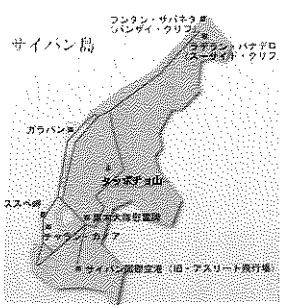


写真3　刀手入油

写真4　偕行社

認識票に示された第118聯隊は、第43師団の第2次派遣部隊として昭和19年5月13日に館山沖を出発。南下途中の6月4日、5日、6日に次々と米潜水艦の雷撃を受け、5隻が沈没し、聯隊長以下主力を失った。



その人数は総兵力3千295名の内、2千240名が海没である。生存者は他船に救助され、5月19日にサイパン島に上陸（陸自幹部学校修親会編「サイパン島作戦」）し、島中～南部のチャランカノアの南東と南ラウラウ湾に配置された。（戦史叢書『中部太平洋陸軍作戦1』の付図「サイパン守備隊最終配備図」）

しかしながら戦闘開始後、現地の確保が難しくなり、後退した方の一部がこのタラヒヒルの壕に入られたと思われる。きっと発見された油壺は、水没を免れてやっとサイパン島に到着し一矢報いようとしたものの戦い利あらず後退された将校のものであり、その際保持していたであろう軍刀は戦闘終了後に米軍に接収されたものと推測される。　合掌

なお、現地調査で発見された遺骨・遺品は北マリアナ諸島歴史保存局（Historic Preservation Office：HPO）で保存されている。遺骨については採取した検体のDNA鑑定を日本国内で行い、日本人の遺骨と判明した場合は火葬ののち送還。また遺品も故人が特定できた場合は同様に日本に送還されるとのことである。

（日本戦没者遺骨収集推進協会の井上達昭氏の情報提供による）